



“ぼくの世界”

4歳児 インド



“キリンさんに草あげるよ”

3歳児 山口県



日展作品 100号油絵  
「高原の室内」

全国幼年美術の会常任委員 谷岡経津子

「春めける土手を散歩の古い人と犬孤独を  
いやすかペアのセータ」友人の句であるが、  
あつという間に高齢者社会が逆ピラミッドの  
構図になってしまった。  
園では新学期での生活にも慣れ先生方も一  
人一人の子どもの気持ちを思いやった上で、  
指導も深められている時期だと思われる。  
子どもが親の虐待で大切な命を落とす悲惨な  
ニュースが日々報道されている。子どもは「国  
の宝」であることを再認識しなければならない。  
領域の中でも子どもの表現活動はその子の  
日頃の葛藤が一番表れる。「絵は児童の心の  
カルテ」であるといわれている所以である。  
チイゼックがいつているように大人の悪い  
間違った干渉が加わっていいない子どもの絵は  
いかなる場合でも正しい。劣等感に悩んでい  
る子どもの絵でも優れた部分を見つけて褒めて  
ほしい。ゆっくりと待ってほしい。子どもは  
自信を取り戻し成長するのである。

# 幼年美術

601

2019 4・5月合併号

発行所 大阪府東大阪市長田中4丁目6-3

ぺんてる(株)大阪支社内

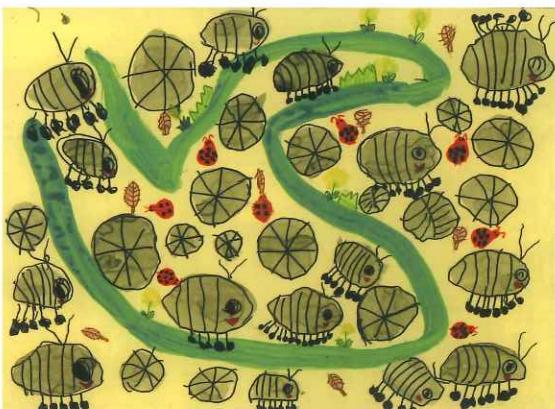
全国幼年美術の会 〒577-0013 ☎ (06)6747-1601

発行人 木代喜司

年間購読料 3,000円 1部300円(送料込み)

第49回世界児童画展

## 作品より



“だんごむしのおさんぽ”

5歳児 和歌山県

巻頭言

絵は児童の心のカルテ

草津市では、幼・小・中の校種を超えて「草津市教職員教科等部会別研修会 図工・美術部会」として図工・美術の教科を窓口に連携をとり、研究を進めている。平成三十年度も市の研究テーマを「みる つくるつながる 行為を楽しみ 活動に浸れる表現活動」とし、年間を通して部会別研修会や作品研修会等を行い、教員の保育・授業力の向上や作品の見方・評価のあり方等について研修を進めている。部会別として、就学前部会、小学校部会、中学校部会に分かれており、それぞれがテーマを掲げて取り組むとともに、各部会が連携をとり授業や保育を通して互いを知り学び合う研修を行っている。また、昨年度までは「保育部会」として活動を行ってきたが、平成二十八年度から公立認定こども園が開園しており、本市において幼保一体化による認定こども園化が推進されていることから、平成三十年度からは「就学前部会」と改め研究を進めていくことになった。今年度

## 「豊かな心 広がる表現 ふれて ためして あらわして」 いろいろな表現を楽しみ、浸れる造形活動をめざして!

草津市図工・美術部会 就学前部会の取組より

滋賀幼年美術の会 横田敏子

の就学前部会のテーマは、「豊かな心 広がる表現 ふれて ためして あらわして いろいろな表現を楽しむ、浸れる造形活動をめざして」とし、市内の公立保育所、幼稚園、こども園が中心となって研究を積み重ねている。取組テーマは、昨年度の取組からさらなる広がりと深まりを求めて、「子ども自らが心を揺り動かして造形遊びを意欲的に行い、その遊びに浸ることで自分の表現に満足感や充実感を感じてほしい」と願い、昨年度のテーマを踏襲して研究を進めることとした。テーマの読み取りとして、「**見る**」「**ときめき**」と「**ひらめき**」があふれる」ととらえ、●造形遊びのもつ意味や値打ちをしっかりと見極め、子どもが出会う教材や用具等のもつ魅力について保育者がしっかりと把握する。●保育を通して出合わせたい経験、獲得してほしい知識や技能について保育者が理解をするといった基礎・基本に立ち返って保育者の力量を高め、本に取り組みを進めるとともに、

●「ひらめき」や「ときめき」と子どもが出合う瞬間を生み出す、そして、その瞬間を持続させる保育者の支援の在り方について追究する実践を保育研究会や作品研究会を通して行い、テーマに迫りたいと考えた。

本研究会の具体的な取組として大きく2つの取組が挙げられる。一つは各部会における研究保育・授業を通して学び合う取組、もう一つは「草津市青少年美術展覧会」を市教委と本研究会が協力して開催して作品研修会を行い、年齢を追つて子どもの作品から学び合う取組である。

## 矢倉幼稚園の公開保育から学ぶ 就学前部会の取組から

毎年1学期に各部会（就学前から中学校まで）において、互いが保育・授業の実際を参観して話し合う「保育・授業研究会」を実施している。就学前部会においても、去る六月十二日に草津市立矢倉幼稚園にて公開保育研究会を行った。矢倉幼稚園は、4歳児1学級、5歳児1学級の幼稚園であり、『友だちと一緒に「やつてみよう」と心をときめかせ、挑戦、体験、感動に胸膨らませる子どもを育てる』を教育目標として様々な教育活動に取り組まれている。

4歳児学級では、入園から2カ月が過ぎ、園生活に慣れてきている子どもたちが、いつも親しんでいる素材や遊びにじっくりと向き合つて遊んだり、友だちのそばで一緒に遊ぶ心地よさを感じたりして、のびのびとやりたい遊びを楽しんでいた。



身近な素材に自分からかかわり、見立てたり「○○のつもり」になつたりして作つて遊べる「やってみた」と思える環境、子どもの手に合つた小さな箱やカップ等「作りたい、使いたい」と思える素材、「見て見て



と思ったときに応答的にかかわってくれる先生の存在が子どもの遊びを価打ちあるものにしていた。子ども達の興味・関心に沿って遊びを考えるとともに、五感を通して様々な素材と出会い、作ることが楽しい、作って遊ぶことがうれしいと思える体験をふんだんにしていくことが子ども達の造形意欲をより高めることにつながる。



5歳児学級では、砂遊びや色水遊びにおいて五感を働かせながら様々な行為を楽しみ「楽しい」「おもしろそう」「こんなこともできた」と充実感や満足感を味わい、発見したことや面白いと感じたことを、近くにいる友だちや先生と一緒に共有しながら遊び込む姿が随所に見られていた。このような子どもの活動を支えているのは、素材の色や形、あるいはなどに興味をもち、思わずやつてみたいと心が動く素材や試しながら遊べる道具、友だちのしていることが見えやすい場の設定や環境の構成等を保育者が考え工夫し援助していることがある。

子どもの遊びから、可塑性の高い砂や水、草花等を使い「こんなことがしたい」という目標をそれぞれがもち、「ふれてためしてあらわして」楽しむ姿があった。それと同時に友だちと言葉や行動を交わし合うことで、より楽しさや発見が広がっていくと感じた。また、遊びや生活の中での造形性はと考えたとき、砂遊びにおいては「砂を掘る」「水を流す」「水をためる」等の行為の中に、色水遊びにおいては「きれいな色を出す」行為の中に造形性を見いだすことができる。このように考えると、あらゆる遊びや生活の中で造形性を見いだし楽しむことができるのでないか。今後も「ときめき」や「ひらめき」に子どもが出会い時間を生み出していく保育者の援助について追究していきたい。

### 「草津市青少年美術展覧会」の 取組から

本展覧会は今年度で第五六回を迎える。長年にわたり、就学前から中学生までの子どもの作品が展示されてきた。今年度も総数で約二〇〇〇点の平面作品、立体作品が出品され、盛大に開催された。

ここで大切にしたいことは、この展覧会を開催する中で子どもの年齢



ごとの作品に触れることができる」とから、作品の見方や指導のあり方等を校種間で研修することができる貴重な場であることに意味がある。幼稚園等教育要領が改訂実施される中で校種間の接続の重要性が示されている。本研究会の活動が、互いの関わる子ども理解や保育・教育理解に結びつき、確かな接続につながるよう努めるとともに、豊かな人生を歩むうえでの豊かな心や心情を培うこととに結びついていくよう、今後も取組を継続し推進していきたいと思う。



## ぽけっと通信

ポケットミーティング in 京都 (実施要項)  
— 子供の未来を造形から考える —

主 催 美育文化ポケット編集委員会 (公益財団法人・美育文化協会)

協 力 龍谷大学

協 賛 ぺんてる株式会社

開催日時 2019年7月13日 (土) 12:30~17:00 (受付12:00~)

会 場 龍谷大学・深草キャンパス 和顔館B-102 (定員120名)

〒612-8577 京都府京都市伏見区深草本町67

参加費用 ポケット購読者 (個人) : 500円

ポケット非購読者 (個人) : 2,400円

※非購読者の参加費には「美育文化ポケット」の年間購読料2,200円が含まれています。

## 内 容 1. オープニング (12:30~12:40) 羽溪 了 (龍谷大学 短期大学部)

## 2. 実践発表 (12:40~14:30)

①小学校実践発表: 笠雷太先生 (筑波大学附属小学校)

②保育園実践発表: 引地美津代先生 (かえで保育園・園長)

③こども園実践発表: 徳田憲生先生 (赤崎こども園)

\*休憩 (14:30~14:40)

## 3. 座談会 (14:40~15:50)

『おもしろさのデザイン —プロジェクトアプローチの今—』

福田泰雅先生 (社会福祉法人赤崎保育園・理事長)

徳田憲生先生 (赤崎こども園)

司会進行／聞き手: 大橋 功・槇 英子

\*休憩・移動 (15:50~16:00)

## 4. ポケットCafe (16:00~17:00)

笠 雷 太 (筑波大学附属小学校)

引地美津代 (かえで保育園)

福 田 泰 雅 (赤崎こども園)

徳 田 憲 生 (赤崎こども園)

大 橋 功 (岡山大学大学院)

槇 英 子 (淑徳大学)

馬 場 千 晶 (鶴見大学短期大学部)

秋 山 道 広 (芦屋市立精道小学校)

羽 溪 了 (龍谷大学 短期大学部)

あいさつとまとめ 大 橋 功 (岡山大学大学院)



卷頭言は、谷岡先生から「絵は児童の心の力ルーテ」という、何とも素敵なかつた。そうですね。子どもの絵とは、子どもの心をのぞかせてくれるものなのですね。この表現活動に関わることは、実はそういう心の対話をすることが主たる理由であるところを肝に銘じておきたいものです。そういう意味からも、滋賀幼美の横田敏子さんが「豊かな人生を歩むうえでの豊かな心や心情を培う」と述べてくださるように、表現活動の目的をしっかりと踏まえていきたいもののです。幼美の大事にしてきたことですしね。そもそもこれが特別なことでなく、幼稚園教育要領や保育所保育指針で明確に示されるところです。しかし、その活動がそこから逸脱してしまいがちであるからこそ、図らずも、子どもが「見て見て」と思ったときに応答的にかわってくれる先生の存在が子どもの遊びを打ちのあるものにしていました。不斬の学びが必要であるのでしょうか。からこそ、子どもの心の動きよりも、予めある保育者の人の環境の意義を述べてくださっています。子どもの心の動きよりも、予めある保育者のイメージを子どもの手を使って再現させてはいけないか?との常なる内省の大切さを感じました。又、「あらゆる遊びや生活の中で造形性を見だし楽しむことができるのではないか」と、普段に出合う瞬間に生まれ出す、そして、その瞬間を持続させる保育者の支援の在り方にについて追究する実践」とも語ってくださっています。その上で、「あらゆる遊びや生活の中で造形性を見だし楽しむことができるのではないか」と、プロジェクトアプローチへの方向性を見出されるようですね。【ぽけっと通信】でご紹介しています「ポケットミーティング in 京都」において、実践発表に続く座談会では、鳥取の地で地道にこのプロジェクト保育を積み上げて来た座談会では、赤崎こども園の福田先生らを交えた座談会となると思います。大きな学びのご縁となると、ついでにこのプロジェクトアプローチへの方向性を見出されると、思っています。大きいです。それにも先立ち六月には和歌山や京都での地区研修会が開催され、来る八月三日には、全国の夏季大会が催されます。正に子どもの絵を通じて、子どもの心に関わる保育・教育を見つめ直す「子どもの絵を読む会」を中心とする遊びを深めていきたいものです。